

# 地球をいやす賛美

ピーター

4年前、「子羊の群れは黙示録の教会を目指す」と言いましたが、これは教会の目標やゴールとして表明したものではありませんでした。わたしたちは、教会成長など少しも興味ありません。「黙示録の教会を目指す」というのは、終末の時代と言われる今、主はわたしたち子羊の群れに黙示録の教会の時が来たことと示されたからです。それは、もはや旧態依然とした牧師や人中心の教会ではなく、またいやしや奇蹟といった賜物、伝統や特定の教理を中心とする教会でもなく、主の賛美だけでよいと信じるということであり、ありとあらゆる国民が集められ、老人も若人も、すべてのものが御座にいますかたと小羊とを賛美礼拝する。この賛美のただ中で、すべてのことが整えられ完成する。

わたしたちがすでに黙示録の教会を実現したとか、そこに至ったとか言うものではありません。

**わたしがすでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ捕えようとして追いかけているのである。そうするのは、キリスト・イエスによって捕えられているからである。**

(ピリピ 3:12)

わたしたちは、黙示録の幻にとらえられた。だから、その実現を目指すのです。それは、今年の1月に始まった黙示録賛美とその後洪水のように与えられている天の賛美でわかるでしょう。この地に黙示録の時が来たのです。黙示録の教会が姿を現してきたのです。

わたしたちに黙示録の賛美が与えられ、さらに天の賛美が洪水のように与えられ続けているということは、大地のいやしのためであります。黙示録のふしぎな調べと、それ以後のあまりに美しい、そして深い賛美の数々は、わたしたちがその調べにエコーし、天の響きを地に共鳴させることによって、地に深いいやしがもたらされるためであります。

これらの賛美を唱(うた)う時、天のいのちの川が地に流れてくる。だから、黙示録の賛美、天の賛美は、地のいやしとなるのです。

**天使はまた、神と小羊の玉座から流れ出て、水晶のように輝く命の水の川をわたしに見せた。川は都の大通りの中央を流れ、その両岸には命の木があって、年に12回実を結び、毎月実をみのらせる。そして、その木の葉は諸国の民に病を治す。**

(黙示録 22:1-2 新共同訳)

いのちの水の川の畔(ほとり)に植えられたいのちの木。その葉には、強力ないやしの効能があり、地上のすべての民の病いをいやすと言います。しかしこの葉は、人間の病いだけではない。地そのものをいやす治癒能力があるのです。

黙示録は、新しい天と新しい地の始まりを告げる時でもあります。天のエルサレムが花嫁のように着飾って降りてくる。天と地が、究極の融合を遂げる時であります。

わたしたちは、今その先駆けとして、天の賛美の洪水を浴びていますが、これは来たるべき時、地が天と融合して一新される時、その前触れとして選ばれ、呼ばれたのです。

今、地のわたしたちが天の賛美に呼応して共に響き合う時、神は痛んでいる地の修復をされているのです。

地球の現状は、それとは裏腹に、刻一刻と悲惨な状況になりつつあります。恐ろしい勢いで、地球の温暖化は加速し、もうすでに耐え難い気候の変化を見ているのですが、この程度は序の口。北極南極の氷は溶け始め、世界の大都市のかなりの部分が海面下に水没するでしょう。地球の大半は亜熱帯になり、疫病や奇病が蔓延(まんえん)するでしょう。

黙示録の世界が展開する。地球の表面では、国と国が激しくいがみ合い、戦争と混乱は極限にまで進

展するでしょう。

天の賛美は、「口には蜜のように甘かったが、それを食べたら、腹が苦くなった」(黙示録 10:10)と言うように、地球の時間にするなら、霊には「甘い」ものをもたらしてくれるが、世界の民の生活は「苦い」ものとなるのです。

しかし、どんなに苦いものであっても、神の計画は着々と進みます。

神の計画は、地球の破滅ではない。神は、乱れた地球を怒りのあまり、めちやくちやに破壊させるために来られるわけではありません。

地球の表面では、さらに苦い時が続くでしょう。さらに混乱に混乱が続くでしょう。しかしすべては御神の聖なる計画 (Divine Project) が実現するためであります。いのちの流れは、たしかに一方向を目指して流れている。「わたしはアルファであり、オメガである」と言われるかたに向かって、今激しく流れているのです。その勢いは、子羊の群れに与えられた天の賛美によっていよいよ加速しています。天の賛美を歌うたびに、わたしたちはオメガ・ポイントであるキリストの似姿に近づきつつありますが、これは同時に、来たるべき新しい世界が建て直されるための準備でもあります。

賛美は、天の次元の地における先駆けであります。わたしたちはたしかに「きたるべき世の力」(ヘブル 6:5)を今体験しつつある。

それを知り、わたしはさらに賛美する。空に向かい海に向かい、「来たりませ主よ」と賛美し、風に呼びかけ水の流れに呼びかけ、「さんび満ちませ」と唱うのです。

一人が天の流れに合わせて賛美する時、いのちの川が地に流れてくる。二人が心を合わせて賛美する時、地は天に呼応して響き、主のあわれみといやしが地球にどくどくと注がれる。わたしたちが呼ばれたのは、大地のいやし、地球の救いのためであります。

天の賛美が鳴り響く時、御神の聖なる計画が、又一步進む。もう誰にもこの流れを止めることはできない。地の上は乱れ、人々は悲しみに明け暮れ、虚しさに彷徨する時、わたしたちは地の時に先駆け、天のいやしを注ぐのです。

時は迫っている。神の新しい時が近づいている。惑星地球は、いっさいの乱れと混乱と病いと悲しみを脱ぎ捨て、花嫁が花婿を出迎えるように、よろこびをもって主を迎えるでしょう。賛美の民こそ、その花嫁ではないか。

2001年7月22日

(「ビジョン」より)